

施設入所者に係る数値目標について

【国の基本指針】（次期計画（H30～32）策定に当たっての目標）

◆平成32年度末時点の施設入所者を平成28年度末時点から2%以上削減する

1 現状（平成28年度末）

- ・入所施設数 45施設
- ・入所者数 2,292人

2 施設入所を巡る状況

■待機者の状況（各施設に対して実施した調査による）

→次期計画期間中の入所を希望する待機者の数（193人）は、現計画策定時（198人）と比べ、ほぼ変化がない。

■関係者の声（障害者施策推進協議会等から）

→「高齢化、重度化、医療的ケアの観点から入所施設が必要」
「地域移行には、グループホームや日中活動サービス等がもっと必要」

■市町村におけるアンケート調査等

※各圏域抽出市において、障がい者に対するアンケートを実施。（分析中）

-
- ・次期計画期間終了時においては「現在同様に生活」との回答が多数の傾向。
 - ・将来は「現在同様に生活」「施設入所」「わからない」などと回答が分かれる傾向。
 - ・重度障がい者については施設入所のニーズが強いとの声多数。

3 課題

- 施設入所は地域におけるセーフティネットの役割を担っており、そのニーズは依然としてあることから、次期計画期間中に入所者数を削減することは難しい。
- 一方、将来どこでどのように生活するかについては、「現在同様に生活」「わからない」との認識が多く、施設入所以外での生活を選択できる環境が十分整っていない状況もある。



グループホームや地域生活支援拠点をより身近なものにし、障がいのある方が地域での生活を具体的にイメージできる状況をつくる必要がある。

4 次期計画期間中の取組

○グループホームをさらに整備し、また、日中活動サービスの場を増やすことで、地域生活を望む障がい者の生活の場を確保。

<次期計画における見込量>

項目	単位	第4期	第5期計画			増加量 (H29 →32)	
		H29 (見込)	H30	H31	H32		
日中	生活介護	人分	4,695	4,836	4,996	5,156	461
活動	就労移行支援	人分	467	520	575	625	158
サー	就労継続支援 (A型)	人分	2,291	2,405	2,551	2,677	386
ビス	就労継続支援 (B型)	人分	2,805	2,995	3,158	3,318	513
共同生活援助 (グループホーム)		人分	1,090	1,220	1,293	1,409	319

○地域生活支援拠点等の整備により、地域生活の体験や緊急時対応ができる体制づくりを推進。

- ・相談支援特別アドバイザー、圏域サポーターによる市町村への助言の実施
- ・圏域障がい者自立支援推進会議において関係機関の調整を実施
- ・整備・運営に関する研修会を開催

○入所施設の機能を活用し、グループホーム等での地域生活をバックアップする体制を整備することにより安心して生活ができる環境づくりを検討・推進。

- ・入所施設の施設長クラスが参加する勉強会を開催し、障がい者の地域生活に対する支援について検討。

○重度の障がい者を中心とした施設入所に係る正確な需要を把握するために、調査を実施。

5 数値目標 (素案)

平成32年度末現在の入所者数 → 現状維持 (2,292人)

6 次期計画以降の見通し (中長期対策)

○次期計画期間中に施設入所以外での生活を選択できる環境を整えるとともに、入所需要に係る詳細な調査を行ったうえで、平成33年度以降の計画において、改めて将来の施設入所の必要性を検討する。